

市立甲府病院 地域医療連携だより

平成 27 年
4 月号
Vol.12

基本理念 「いのちに光を、心にやすらぎを」

いのちの大切さを重んじ、患者さんとの相互信頼の上に立った医療をめざします。



地域がん診療連携拠点病院

もくじ

- ◆診療科紹介
- ◆地域医療連携勉強会
- ◆登録医リーフレット

当院の診療科紹介

※ 医療スタッフについては、平成 27 年 4 月 1 日からの予定

内科の紹介

内科は平成 27 年 4 月から 22 人体制になっています。医師数、外来・入院患者数など院内で最大規模の診療科です。山梨大学医学部と密接に連携しており、各医師は最新の医療に積極的に取り組んでいます。また各分野の専門医を中心にした各診療科による診療体制が整備されています。常勤医師による「呼吸器内科」「循環器内科」「消化器内科」「腎臓・膠原病内科」「糖尿病・内分泌内科」「総合内科」、非常勤医師による「血液内科」の 7 診療科体制であり、すべての内科領域に対応が可能です。外来担当表を別に示しますが、基本的には専門外来制をとっています。各専門外来では、予約患者と各専門外来宛の紹介患者、すでに疾患名が分かっている新患などを担当しています。「新患外来」として、内科宛の紹介患者や紹介状のない新患患者などに総合内科の経験豊富な医師が毎日対応しています。入院診療は各専門グループで担当し、主治医・担当医の複数体制をとっています。

当院内科は下記の学会施設認定を受けています。

- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・循環器専門医研修関連施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本透析医学会認定施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設

診療スタッフ

小澤 克良 (おざわかつら) 院長	(社) 日本呼吸器学会認定・呼吸器専門医
大木 善之助 (おおき ぜんのすけ) 統括科部長	(社) 日本呼吸器学会認定・呼吸器専門医
菱山 千祐 (ひしやま せんすけ) 科長	(社) 日本呼吸器学会認定・呼吸器専門医
齊木 雅史 (さいき まさふみ) 医師	(社) 日本内科学会認定医
内田 賢典 (うちだ よしのり) 医師	(社) 日本内科学会認定医

特色

2009年1月1日より、「呼吸器内科」を標榜しています。スタッフは常勤5名、非常勤1名(井上 修)で、呼吸器疾患全般を幅広く診療しています。とくに、肺癌、各種呼吸器感染症(肺炎)、気管支喘息、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群(SAS)に力を入れており、いずれの疾患の患者数も山梨県内でトップです。常に40人以上の呼吸器疾患患者が入院しています。学会や研究会活動にも積極的に参加し、毎年20題前後の発表を行っています。毎木曜日には呼吸器科スタッフによる呼吸器内科入院患者全例を対象としたカンファレンスを、毎水曜日には外科と放射線診断科・放射線治療科と合同で院内カンファレンスを実施しています。その他にも、毎月1回の「山梨胸部疾患研究会」、年1回の「山梨早期肺癌セミナー」を主催して、診療レベルの向上を図り、周辺の診療所や県内の他の病院との連携に努力しています。

主な疾患と実績 (担当医師)

◆ 肺癌 (小澤、大木、菱山、齊木)

年間120名前後の新規患者があります。集団検診やCT検診で発見される早期の肺癌の適切な診断と治療に他科の医師と協力して取り組んでいます。肺癌手術例は県内で最多であり、2002年には58例と県内で唯一50例以上の基準に到達しています。非手術例には日本肺癌学会ガイドラインを参考にし、QOLを重視した外来化学療法を施行しており、2004年5月からは、院内に開設された「外来通院治療室」を利用した安全で快適な治療を心がけています。また、EGFR・ALKに代表される遺伝子変異の検査も積極的に行っており、治療選択に役立てています。

◆ 呼吸器感染症 (小澤、齊木、内田)

外来受診の肺炎(市中肺炎)は年間200例前後で、約2割が外来治療、約8割が入院治療になっています。日本呼吸器学会ガイドラインを参考にした効率的な治療を行い、入院期間の短縮を心がけています。

◆ 間質性肺炎・肺線維症 (小澤、大木、内田)

診断と治療の難しい疾患群であり、他の病院からの紹介患者が多く、年間40～60例を診療しています。

◆ 気管支喘息 (小澤、大木、菱山)

吸入ステロイドの早期導入と維持、管理を医師、看護師及び薬剤師が共同で指導しています。咳型喘息、難治性喘息に取り組んでいます。2014年6月より呼気NO検査を導入し、診断と治療に役立てています。

◆ 睡眠時無呼吸症候群(SAS) (小澤、菱山、齊木)

2000年からSASの診療を開始し、現在までに約800例の患者が受診しています。外来での簡易検査、入院での精密検査、その後のSAS外来での管理などのシステムは確立しています。歯科口腔外科、耳鼻科、循環器科など共同して診療しています。2006年9月までに、鼻CPAPの導入が約280例、歯科装置が約100例、耳鼻科手術が10例に行われています。SASに合併する生活習慣病の管理、栄養指導にも取り組んでいます。

◆ 呼吸不全 (大木、齊木、内田)

様々な疾患での急性、慢性呼吸不全に対する非侵襲的陽圧換気療法(NPPV)に取り組んでいます。在宅NPPV例も10例に達しています。慢性呼吸不全患者に対する在宅酸素療法は約40例を管理中です。

診療スタッフ

沢登 貴雄 (さわのぼり たかお) 科部長	(社) 日本内科学会認定・総合内科専門医、 (社) 日本循環器学会認定・循環器専門医
瀧島 勲 (たきしま いさお) 科長	(社) 日本内科学会認定、(社) 日本循環器学会認定・循環器専門医
望田 哲司 (もちだ てつじ) 医長	
鈴木 浩二 (すずき こうじ) 医長	

特色

当科では狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全、心筋症、弁膜症、高血圧症、動脈硬化症などの心臓や血管に関わる疾患の診断、治療を行っています。

症状としては、胸痛や動悸、息切れ、失神、むくみなどの症状がある方、検診で高血圧、心電図異常、心雑音を指摘された方が対象となります。

当科における診療では病歴聴取と診察を重視して、必要な検査を患者さんとともに進めていきます。入院においては医師、看護師が協力しチームワークの下にグループ治療を行います。動脈硬化の原因となる高血圧、高脂血症、糖尿病、肥満の管理、治療に力を入れています。

主な疾患と実績

いずれも最新鋭の機器で県内有数の設備です。これらの機器の使いこなしも日々向上を心がけ、甲府地域の最先端の医療を担うのにふさわしい病院を目指しています。

◆ 心臓カテーテル検査

狭心症、心筋梗塞症、心筋症などの診断に必須の検査で年間 250 件を行っています。急性心筋梗塞症などで緊急に行った検査は年間 30 件です。カテーテル血管治療（ふうせん治療、ステント治療）は年間 70 件行っていますが、安全性・有効性を高めるために血管内超音波装置を併用しています。徐脈性不整脈に対してはペースメーカー埋め込みを年間 20 件行っています。

◆ 心エコー図検査

超音波により心臓の動きや形態、血流の状況がわかります。循環器疾患の診断には必須の検査です。年間 1,700 件行っています。

◆ ホルター長時間心電図

日常生活における不整脈や狭心症の発作を長時間記録により捕らえます。当院では院内で解析し、緊急性のある場合は患者さんに迅速に電話連絡を行います。年間 300 件行っています。

◆ トレッドミル運動負荷試験

ベルトコンベアを用いた運動試験で歩行負荷による症状、心電図変化を評価します。狭心症の診断では最初に行います。年間 100 件行っています。

◆ 冠動脈 CT 検査

80 列 CT が導入されました。造影剤を使用し冠動脈の描出を行います。早い脈ではきれいな画像が得られないために撮影時にはβ遮断薬を併用することがあります。年間 100 件行っています。

◆ 心臓核医学検査

心筋の血流と心臓の動きが評価できます。薬物負荷を行います。この際に心エコー図検査を併用することで診断精度を向上させています。年間 50 件行っています。

消化器内科

診療スタッフ

山梨大学第一内科より常勤医 7 名が赴任し、平成 23 年 11 月 1 日より消化器内科としての診療を開始いたしました。

雨宮 史武 (あめみや ふみたけ) 科長 医学博士	(社) 日本内科学会認定専門医 (財) 日本消化器病学会専門医 (社) 日本消化器内視鏡学会専門医 (社) 日本肝臓学会肝臓専門医 (社) 日本癌治療認定医機構がん治療認定医
門倉 信 (かどくら まこと) 科長 医学博士	(社) 日本内科学会認定専門医 (財) 日本消化器病学会専門医 (社) 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 (社) 日本癌治療認定医機構がん治療認定医 (社) 日本肝臓学会肝臓専門医
辰巳 明久 (たつみ あきひさ) 医長 医学博士	(社) 日本内科学会認定医 (財) 日本消化器病学会専門医 (社) 日本肝臓学会肝臓専門医 (社) 日本消化器内視鏡学会専門医
石田 泰章 (いしだ やすあき) 医師	(社) 日本内科学会認定専門医
吉村 大 (よしむら だい) 医師	
石田 剛士 (いしだ たけし) 医師	
島村 成樹 (しまむら なるき) 医師	

特色

当科は、山梨大学消化器内科と連携し診療を行っています。大学病院からは、常勤医に加えて、専門医 6 名が非常勤医師として派遣されています。

地域の病院、診療所、医院、クリニック、リハビリ病院、検診施設と連携し、病状に応じた検査、入院診療を行っています。

主な疾患と実績

◆ 消化管 (食道、胃、十二指腸、小腸、大腸)

消化管の良性腫瘍に対する内視鏡治療や化学療法、食道・胃静脈瘤の内視鏡治療、その他、食道炎や胃・十二指腸潰瘍に対する治療を行っています。

◆ 肝臓

急性肝炎・慢性肝炎などのウイルス性肝炎をはじめ肝がんに対する動脈塞栓術、ラジオ波焼灼術などを行っています。

◆ 胆のう、胆管、膵臓

胆道や膵の腫瘍性疾患に対する治療、内視鏡を用いた胆石や胆管狭窄の治療など、より患者さんの体への負担の少ない治療に取り組んでいます。

◆ 救急対応

消化管出血や閉塞性黄疸に対する内視鏡処置などの救急対応を行っています。

当科で行っている専門的な検査と治療

□ 消化管疾患

内視鏡的止血、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、内視鏡的粘膜切除術、粘膜切除特殊光による表在癌の診断、化学療法、抗体療法

□ 肝疾患

ラジオ波焼灼療法、動注化学療法、インターフェロン治療、経口抗ウイルス療法

□ 胆のう・膵臓疾患

胆膵内視鏡、乳頭切開・バルーン拡張、胆道・膵管ステント、化学療法

診療スタッフ

緒方 亮二 (おがたりょうじ) 科長	(社) 日本内科学会認定 総合内科専門医 (社) 日本腎臓学会認定 腎臓専門医・指導医 (社) 日本透析医学会認定 透析専門医 (社) 日本リウマチ学会認定 リウマチ専門医
安藤 美那子 (あんどう みなこ) 医師	

主な疾患と実績

改善する見込みのある腎臓病の患者さんには、慢性腎不全への進行を防ぐために積極的な治療を行っております。症状がなく治療を急ぐ必要が無い場合は3泊4日の入院で腎生検を行い、2週間後の外来で腎生検の結果を参考にして治療法の選択を行います。

慢性腎不全の原因として糖尿病性腎症に次いで2番目に多いとされるIgA腎症はこの腎生検でしか診断できない疾患の一つです。そのIgA腎症の根治的治療法として期待されている扁桃パルス療法が日本全国で浸透してきており、当科でも積極的に施行しております。

大量の蛋白尿による低アルブミン血症と体液過剰症状(浮腫・高血圧・呼吸困難)をきたしている病態をネフローゼ症候群といいます。この場合はまず利尿剤の注射・アルブミンの点滴・一時的な透析などで体液過剰の補正を行います。補正されたところで腎生検を施行し原因の診断を行い、その後ステロイドの点滴・免疫抑制剤の内服・LDLアフェレーシス療法といったネフローゼに対する治療を施行します。

腎臓病が治療されないまま時間が経過しますと、腎機能の低下に伴い腎臓のサイズが小さくなってきます。両側の腎臓が萎縮し根治的な治療ができなくなった状態を慢性腎不全といいます。ここまでくると治療目標は腎機能の改善ではなく、透析導入までの期間を健康的な状態を保ちながら延長させることとなります。具体的な治療としては慢性腎不全の症状である溢水や貧血・電解質異常の補正を行いながら、カリウム制限や塩分制限といった腎臓の負担が少ない食事内容を指導していきます。

しかし、いずれは腎代替療法(血液透析・腹膜透析・腎移植)が必要になりますので、3つのうちいずれかを選択する必要があります。血液透析を希望している患者さんには内シャント設置術を2泊3日の入院で行います。当院で内シャント作成が困難な場合や腹膜透析・腎移植を希望される患者さんについては山梨大学泌尿器科の腎不全専門外来を紹介いたします。身体所見や血液検査の結果から血液透析が必要になった場合は10日前後の入院で血液透析導入を行います。退院後は患者さんの居住区や生活環境などを考慮しながら適切な維持透析施設を紹介いたします。

関節リウマチは以前は有効な治療薬がほとんどなかったため痛み止めやステロイドの内服、関節内注射などで症状を抑えながら手術療法で関節修復のタイミングをみていくという治療が中心であり、整形外科医がリウマチ診療の担い手でした。こういった従来の治療法では関節の破壊を抑えることができませんが、現在はリウマトレックスを初めとしたさまざまな治療薬で関節の破壊を抑制できるようになりました。そのため全国的に関節リウマチの治療の担い手は整形外科医からリウマチ内科医に次第にシフトしてきております。

関節リウマチの治療はまず全身状態を把握してリウマトレックスが使用できるかどうか判断することが必要になります。リウマトレックスが使用できない場合や単剤で効果不十分の場合は他の免疫抑制剤の使用を検討します。いずれの薬剤にも重篤な副作用がおこる可能性があり、定期的な検査でその発症予防・治療に努めます。

SLEやANCA関連血管炎といった膠原病の一部は致命的な状態に重篤化したり、急性腎不全を発症したりすることがあります。そのような場合は透析療法やアフェレーシス療法などを併用する必要があります。当科は同一科でこれらの治療法に対応することが可能な数少ない施設であり、重症膠原病にも十分な対応を行うことができます。

糖尿病内科・内分泌内科

診療スタッフ

新藤 英夫 (しんどう ひでお) 診療部長	(社) 日本糖尿病学会認定・糖尿病専門医 (社) 日本内科学会認定・総合内科専門医
荻部 豊彦 (かりべ とよひこ) 科長	

特色

① 患者指導システム

糖尿病患者さんの診療においては生活指導が最も重要な点です。そのためのシステムとして

- 1) 外来での個別栄養指導・療養指導 管理栄養士が個々の患者さんの状態に応じて必要なだけ行います。今後療養指導士による栄養指導以外の療養指導も外来で個別指導を行う予定で準備を整えています。フットケア・透析予防のための指導なども行っています。
- 2) 糖尿病教室 現在年間5回、主に新たに糖尿病と診断された患者さんを対象に指導スタッフ（医師、栄養士、看護師、薬剤師、理学療法士）総出で工夫を凝らして行っています。
- 3) 6日間の指導入院 クリティカル・パスを用い、患者さんの治療に必要な知識、技術を習得してもらい、治療の動機づけを行って、長期的に治療が良好に進むよう指導しています。
- 4) 現在8名の日本糖尿病療養士（CDE-J）が指導に携わっています。
- 5) 現在CDE-Jに加え、1名の糖尿病認定看護師が指導の中心となって活動しています。

② 合併症の評価

タッチテスト、神経伝導検査などを用いた県内でも最高水準の糖尿病性神経障害の評価、治療、糖尿病性腎症食の指導、頸動脈エコー、血管脈波速度（PWV）、ABPIなどを用いた動脈硬化の評価など他病院に先駆けておこなっています。

主な疾患

- (1) 糖尿病 (2) 高脂血症 (3) 内分泌疾患、甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎などの疾患

血液浄化療法室

診療スタッフ

相川 雅美 (あいかわ まさみ) 科部長 血液浄化療法室長	(社) 日本透析医学会認定・透析専門医 (社) 日本腎臓学会認定・腎臓専門医 (社) 日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医
田邊 信明 (たなべ のぶあき) 統括診療部長	(社) 日本透析医学会認定・透析専門医 (社) 日本腎臓学会認定・腎臓専門医 (社) 日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医
小室 三津夫 (こむろ みつお) 科部長	(社) 日本透析医学会認定・透析専門医 (社) 日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医
緒方 亮二 (おがたりょうじ) 科長	(社) 日本透析医学会認定・透析専門医 (社) 日本腎臓学会認定・腎臓専門医 (社) 日本内科学会認定・認定内科医 (社) 日本リウマチ学会認定・リウマチ専門医
安藤 美那子 (あんどう みなこ) 医師	

特色

現在、泌尿器科 3 名、腎臓内科 2 名が、兼任のかたちで血液浄化療法室の診療にあたっています。

治療のほとんどは、慢性腎不全に対する維持血液透析です。当院で導入した患者さんだけでなく、希望があれば他院で導入された患者さんにも対応可能です。当院は総合病院であり、透析患者さんが他疾患で入院加療の際の透析治療にも対応しています。

また、急性腎不全（腎機能改善の可能性あり）に対する緊急透析、エンドトキシン血症などに対する吸着療法（エンドトキシン吸着、免疫吸着など）も可能な範囲で対応しています。

バスキュラーアクセスの作成、インターベンション治療も行っています。

総合内科

診療スタッフ

岩崎 康一（いわさき こういち） 統括科部長	(社) 日本内科学会認定・総合内科専門医 (社) 日本循環器学会認定・循環器専門医 (社) 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医
河埜 功（こうの いさお） 科部長	(社) 日本内科学会認定・総合内科専門医 (社) 日本循環器学会認定・循環器専門医 日本高血圧学会認定・高血圧専門医
上記 2 名の他 新患外来担当医師	

特色・診療内容

初診外来を担当し よりの確な診断を目指し、臓器別専門科・救急科とも連携しより効率的な医療を心がけています。

高齢化が進み複数の健康問題をかかえる方が増えており、そのような患者さんを総合的に診療し、包括的な医療を提供することを目指しています。

神経内科の紹介

診療スタッフ

富樫 慎治（とがし しんじ）科部長	有限責任中間法人 日本神経学会認定 神経内科専門医
-------------------	---------------------------

主な疾患と実績

神経内科では、脳、脊髄などの中枢神経から末梢神経までの病気と筋肉の病気を診療しています。具体的には、脳血管障害（脳梗塞、脳出血）、てんかん、頭痛、めまい、脳炎、髄膜炎、神経難病（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症、多発性筋炎など）、多発神経炎、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィーなどがあげられます。名前は似ていますが心療内科ではありません。うつ病や神経衰弱、不眠症などは診察していません。

外来患者さんは 1 日平均 36 人となっています。新患では、頭痛、めまい、脳血管障害とパーキンソン病などの神経難病の方を多く診療しています。また、当科外来では約 150 人余りのパーキンソン病の患者さんを診療しています。入院では 1 日平均 18 人の方が在院していました。平均在院日数（患者さん 1 人あたりの平均入院日数）は 20 日でした。

早期に診断治療を行い、患者さんには出来るだけ早い社会復帰が出来るよう努力しています。入院では、脳血管障害、めまい、脳炎、髄膜炎などの急性疾患に対応し多く診ています。パーキンソン病が悪化した方の薬剤調節のための入院や脊髄小脳変性症の T R H-b ヒルトニン療法なども行っています。脳血管障害は、急性期の救命を主眼とした治療に専念しており急性期を乗り切った方は、御家族の方と相談しながら近くのリハビリテーション病院に転院していただいて機能回復治療を受けることをすすめています。

特殊な治療

片側顔面痙攣や痙性斜頸に対するボトックス（ボツリヌス毒素）の注射療法やギラン・バレー症候群に対する免疫グロブリン療法、脳深部刺激治療など最新の治療も提供しています。脳神経外科と協力し、パーキンソン病の深部脳刺激治療を提供しています。

医療設備

CT（2台）、MRI、脳血管造影、核医学検査（脳血流測定）、脳波、各種誘発電位、筋電図が可能です。

小児科の紹介

診療スタッフ

青山 香喜（あおやま こうき） 副院長	(社) 日本小児科学会認定・小児科専門医・日本周産期・新生児医学会・暫定指導医
伯耆原 祥（ほうきばら しょう） 科長	
古本 雅宏（ふるもと まさひろ） 医長	
村瀬 翼（むらせ つばさ） 医師	
丸山 悠太（まるやま ゆうた） 医師	
ほか大学小児科医数名	

小児科の紹介

地域の中核病院の小児科として、地域のかかりつけ医との連携を大事にし、丁寧な診療を心がけています。

入院患者は主治医の他に病棟担当医も診察し、複数の医師の診察を受けることができます。1回 / 週の看護師、薬剤師、医師の病棟カンファレンスでは、病状や治療方針の確認を行っています。

病床数は29床（新生児6床、小児一般病床23床）で、新生児6床はNICUになります。NICUは分娩エリアに隣接しており、状態の悪い新生児は直ちにNICUにて管理を行っています。

一般小児病棟は肺炎、気管支喘息発作、川崎病などの急性期疾患が主体となります。院内学級（山城小学校分校・城南中学校分校）があり、ネフローゼ症候群、腎炎、膠原病などの慢性疾患の児にはベッドサイド学習、あるいは院内学校に通いながらの治療も行っています。

病棟内にはプレイルームがあり、急性疾患の軽快した児や慢性疾患児の憩いの場となっています。

当院は日本小児科学会専門医研修施設（認定番号3171号）、地域周産期医療機関です。





外科の紹介

診療スタッフ

		専門分野
<p>巾 芳昭 (はば よしあき) 総合相談センター長</p> <p>医学博士</p>	<p>日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医 日本がん治療認定機構 がん治療認定医 日本超音波学会 超音波専門医 日本肝臓学会 肝臓専門医 日本消化器病学会 消化器病専門医・指導医 日本内視鏡学会 内視鏡専門医・指導医</p>	<p>消化器外科 肝胆膵外科</p>
<p>宮澤 正久 (みやざわ まさひさ) 科部長</p> <p>医学博士</p>	<p>日本外科学会 外科専門医・指導医 呼吸器外科専門医合同委員会 呼吸器外科専門医 日本胸部外科学会 胸部外科認定医・指導医 日本がん治療認定機構 暫定教育医 肺がん CT 検診認定機構 肺がん CT 検診認定医師 日本呼吸器外科学会 評議員 信州大学医学部 臨床教授</p>	<p>呼吸器外科</p>
<p>千須和 寿直 (ちすわ ひさなお) 科部長 兼務 感染管理室長</p> <p>医学博士</p>	<p>日本外科学会 外科専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器外科専門医 ・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会 消化器病専門医 日本がん治療認定機構 暫定教育医・がん治療認定医 ICD 制度協議会認定インфекションコントロールドクター</p>	<p>消化器外科 内視鏡外科</p>
<p>國友 和善 (くにとも かずよし) 科部長</p> <p>医学博士</p>	<p>日本外科学会 外科専門医 日本乳癌学会 乳腺専門医・乳腺指導医 日本がん治療認定機構 がん治療認定医 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師</p>	<p>乳腺・ 内分泌外科</p>
<p>角田 元 (つのだ はじめ) 科部長</p>	<p>日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会 認定医</p>	<p>消化器外科 内視鏡外科</p>
<p>三井 文彦 (みつい ふみひこ) 科長</p> <p>医学博士</p>	<p>日本外科学会 外科専門医 日本内視鏡学会 内視鏡専門医 日本消化器病学会 消化器病専門医</p>	<p>消化器外科</p>
<p>小林 洋明 (こばやし ひろあき) 医長</p>	<p>日本外科学会 外科専門医</p>	<p>消化器外科 一般外科</p>
<p>樫本 健太郎 (かしもと けんたろう) 医師</p>		<p>消化器外科 一般外科</p>
<p>村松 昭 (むらまつ あきら) 非常勤医師</p>		<p>乳腺・ 内分泌外科</p>
<p>井上 亜矢子 (いのうえ あやこ) 非常勤医師</p>	<p>日本外科学会 外科専門医 日本乳癌学会 乳腺認定医 日本乳がん検診精度管理中央機構 検診マンモグラフィ読影認定医師</p>	<p>乳腺外科</p>

診療内容

1. 消化器外科（含む内視鏡外科）、呼吸器外科、乳腺内分泌外科、一般外科の領域を扱い患者さんに満足してもらえる医療を目指して日夜診療に励んでいます。また、地域がん診療拠点病院としてがん患者さんの受け入れ対応、がん診療の充実を図っています。
2. 各分野に指導医／専門医を配置し専門的な高度の医療を行っています。
3. 科内のカンファレンスのみではなく、他科ドクター、他職種とのカンファレンスを行うことにより連携を深め「チーム医療」の実践に努めています。特にがん診療に関しては、内科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、薬剤師、看護師等、多職種スタッフにより十分な症例検討（カンサーボード）を行い最善の治療を目指して行っています。
4. 「クリティカルパス」を積極的に導入し標準化した効率的な医療を目指しています。
5. 各分野で内視鏡手術を積極的に導入し、体の負担を少なく入院期間も短くなるよう努めています。
6. お待たせしない早期の手術を心がけており受診されてから 2 週間程度で手術ができる体制を整えています。
7. 外科手術のみではなく、放射線治療、外来での化学療法など患者さん、ご家族の希望を十分に考慮させていただいたうえで最適な治療を行っています。

当院外科は下記の学会施設認定を受けています。

- ▶ 日本外科学会外科専門医制度修練施設（指定施設）
- ▶ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設（認定施設）
- ▶ 呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設（関連施設）
- ▶ 日本乳癌学会認定施設

消化器外科

消化器外科学会指導医、消化器外科学会専門医、外科学会専門医のスタッフを中心に治療にあたっております。

平成 25 年の消化器外科関連の手術件数は 480 件で年々増加しています。消化器外科は胃癌、大腸癌、肝癌、膵癌、胆道癌等の消化器系癌を中心に扱い、各癌の専門医による手術を行っています。また、癌のみではなく鼠径ヘルニアや急性胆のう炎、虫垂炎等の急性腹症や良性疾患の緊急手術も迅速に施行しております。早期癌はなるべく機能を温存する侵襲の少ない手術を心がけています。進行癌は血行再建等も積極的に行なっておりますが手術だけにこだわらず放射線治療や化学療法も積極的に取り入れ、癌の切除率を向上させています。また、手術後の日常生活をより快適に送っていただけるよう術前より内科、放射線科、緩和チーム、栄養管理チーム、リハビリ、認定専門看護師など多様な職種と協力体制をとっています。近年は大腸がん手術中心に腹腔鏡手術数が増え術後の在院日数が大幅に短縮されています。鼠径ヘルニア手術にも腹腔鏡手術をとりいれ約半数で施行されています。

平成 25 年おもな手術数 胃癌 36 例 大腸癌 93 例 胆道膵臓癌 14 例 肝癌 10 例 胆石胆嚢炎 64 例鼠径ヘルニア 150 例 急性腹症 46 例 など 480 例

呼吸器外科

呼吸器外科は、心大血管、食道領域を除く胸部疾患に対する手術を行っています。原発性あるいは転移性肺がん、縦隔腫瘍、自然気胸などが主なものです。

- 可能な限り胸腔鏡を用いた手術を選択し、早期退院を目指しています。
- 呼吸器内科、放射線診断科等のスタッフをまじえたカンファレンスで方針を決定するチーム医療を実践しています。
- 手術のみではなく、術後の抗がん剤治療、専門スタッフと連携した放射線治療等、集学的治療にも対応しています。

内視鏡外科

- 当科では、お腹の中（腹腔内）のいろいろな手術に腹腔鏡手術を取り入れています。疾患、緊急性、ご本人の希望などで判断しています。
- 腹腔鏡手術の最大の特徴は、「患者さんの体にやさしい」ことです。

- 実際には、全身麻酔で、お腹の壁に 5mm～12mm のポートを 3～5 本入れ、内視鏡でお腹の中を画面に映しながら、細長い特殊な器具を使用して体の外からお腹の中の手術を行います。
- その長所は、開腹手術に比べて、①傷が小さいこと、②精密な手術ができること、③手術中の出血量が少ないこと、④術後の痛みが少ないこと、⑤術後の回復が早いこと、⑥在院日数が短いことなどです。
- その短所は、①開腹手術に比べると手術時間がやや時間長くなること、②費用がやや高いこと、③疾患や状態により対応できないこともあることなどです。
- 当科で腹腔鏡手術を取り入れている疾患は、早期胃癌、その他の胃腫瘍、胆嚢疾患（胆石症、胆嚢炎、胆嚢ポリープ）、脾臓疾患、小腸腫瘍、腸閉塞、急性虫垂炎、内ヘルニア、鼠径ヘルニア、大腸癌・直腸癌などです。
- 胆嚢疾患では、80～90%が腹腔鏡で手術が行われています。特に急性胆嚢炎では、入院後 3 日以内の手術を目指しています。
- また、大腸癌（結腸癌・直腸癌）でも積極的に腹腔鏡手術を取り入れ、症例の約半数を腹腔鏡で行っています。

乳腺外科・内分泌外科

診療体制

常勤医 1 名、嘱託医 1 名、非常勤医 1 名にて診療を行っています。非常勤医 1 名は女性医師ですので、女性医師による乳腺の診察をご希望の患者さんはお問い合わせください。

また、病状などにより必要に応じて、放射線治療科、緩和ケア内科、リンパ浮腫外来などとも連携を取りながら治療を行っています。

外来患者数は、年間延べ 6000 人以上で、最近 1 年間の乳腺・内分泌外科の新患総数は 521 人でした。平成 25 年度の手術は、乳癌手術 34 件、甲状腺疾患手術 10 件でした。

乳がんについて

日本では乳がんが年々増加傾向で、がん登録から推定した乳がん罹患患者数は年間 6 万人程度とされ、女性のがん罹患数の 1 位となっています。日本人女性が一生のうちに乳癌になる確率は 18 人に 1 人という統計もあります。日本人の乳がんは、30 歳代後半から急に増加し 40 歳代後半が最も多く、70 歳以上でも比較的多くみられます。乳がん検診や人間ドックを受け、また月に 1 度程度は自分でも自己検診をしてチェックしてみてください。

検査・診断

乳房に異常を感じたり、または検診などで異常を指摘されて受診した際に、まず行う検査として、視触診、マンモグラフィ、乳房超音波検査があります。

これら検査で良性か悪性の区別が付かない場合や乳がんを疑う結果が出た場合は、病変に細い針を刺して細胞を採取する穿刺吸引細胞診や、局所麻酔下でやや太い針を刺して行う組織診（針生検）などを行い診断します。

乳がんと診断され、治療を始める前に行う検査としては、下記の検査があります。これら検査で乳房内の広がりや乳房以外の転移の有無などを調べます。

- ① 乳房内の乳がんの広がりを調べる検査（乳房 MRI、CT 検査など）
- ② わきのした（腋窩）のリンパ節に転移があるか無いか、多いか少ないかを調べる検査（CT、P 超音波検査、PET 検査など）
- ③ 他の臓器への転移（遠隔転移）があるか無いかの検査（CT 検査、骨シンチグラフィ、PET 検査など）

乳がんの治療

乳がんと診断された後、進行度や希望などを考慮し、①手術療法、②薬物療法、③放射線治療、④緩和ケア療法などを行います。

- ① 手術療法として、乳がんの大きさや広がりにより、乳房の一部を切除する乳房温存手術や乳房全体を切除する乳房切除術を行います。また、術前検査の腋窩リンパ節転移の有無により、センチネルリンパ節生検や腋窩リンパ節郭清を行います。

当科のセンチネルリンパ節生検は ICG という色素と赤外線カメラを用いた蛍光色素法による方法を行っています。

- ② 薬物療法は、抗がん剤、内分泌治療薬（ホルモン治療）、分子標的薬などを乳がんの性質（ホルモン受容体、HER2蛋白発現の有無など）や進行度に応じて、単独ないし複数を組み合わせて行います。最近では手術前に薬物治療を行った後、手術を行うことも多くなっています。
- ③ 放射線治療は、手術後に温存した乳腺組織や乳房を切除した胸壁、リンパ節からの再発を少なくする目的で行う場合と、骨や脳への転移や再発病変の治療を目的に行います。
- ④ 緩和ケアは、がんに関係する精神的および身体的な苦痛を和らげる治療です。進行がんや終末期のがん患者さんだけが対象ではなく、がんの診断、治療と同時に、または早期から並行して行うケアと考えられ、緩和ケアチームとともに行います。

乳がんの治療は日本乳癌学会の乳癌診療ガイドラインなどに沿って施行していますが、患者さんの希望や併存疾患、全身状態などもふまえて、患者さん本人やご家族と十分に面談を行いインフォームド・コンセントを得た上で診療を行っています。

甲状腺・副甲状腺疾患について

甲状腺や副甲状腺にできる良性腫瘍や悪性腫瘍などの手術による外科治療を行っています。前頸部にしこりがある、人間ドックや職場検診などで甲状腺のしこりが疑われた場合などは、まずは受診してください。

頸部超音波検査や血液検査などを行い、検査結果により穿刺吸引細胞診などの検査を行い診断します。甲状腺癌と診断された場合や良性の甲状腺腫瘍でも3cm以上ある場合、高カルシウム血症を伴う副甲状腺腫瘍などは手術を考慮します。



診療スタッフ

前川 慎吾 (まえかわ しんご) 統括科部長	日本整形外科学会認定 ・整形外科専門医 ・研修指導責任者 ・脊椎脊髄病医 ・脊椎内視鏡下手術技術認定医 ・リウマチ医 ・運動器リハビリテーション医 日本脊椎脊髄病学会 ・脊椎脊髄外科指導医 日本リウマチ学会 ・指導医 ・専門医 日本リハビリテーション医学会 ・専門医 ・認定臨床医 ・指導責任者
堀内 忠一 (ほりうち ただひろ) 科部長	日本整形外科学会認定 ・整形外科専門医 ・研修指導責任者 ・リウマチ医 ・スポーツ医 ・運動器リハビリテーション医 日本リウマチ学会 ・専門医
川崎 晋睦 (かわさき のぶちか) 科長	日本整形外科学会認定 ・整形外科専門医 ・脊椎脊髄病医 ・リウマチ医 日本脊椎脊髄病学会 ・脊椎脊髄外科指導医
中村 祐敬 (なかむら まさひろ) 科長	日本整形外科学会認定 ・整形外科専門医 ・リウマチ医 ・運動器リハビリテーション医
穴山 聡 (あなやま さとし) 科長	日本整形外科学会認定 ・整形外科専門医 ・運動器リハビリテーション医
藤巻 圭太 (ふじまき けいた) 科長	日本整形外科学会認定 ・整形外科専門医 ・リウマチ医 ・運動器リハビリテーション医
吉川 陵 (きっかわ りょう) 科長	日本整形外科学会認定 ・整形外科専門医 ・運動器リハビリテーション医
羽中田 紘司 (はちゅうだ こうじ) 医長	

専門領域

担当医師	専門領域
前川 慎吾	脊椎・側彎
堀内 忠一	人工関節
川崎 晋睦	脊椎・側彎
中村 祐敬	人工関節
穴山 聡	手の外科
藤巻 圭太	スポーツ・関節鏡
吉川 陵	手の外科
羽中田 紘司	整形外科一般

曜日別新患様の人数制限等

月	火	水	木	金
紹介状が必要	人数制限あり（午前11時前でも定員になり次第受付終了）			紹介状が必要



形成外科の紹介

診療スタッフ

成松 巖（なりまつ いわお）科長	（社）日本形成外科学会認定・形成外科専門医
------------------	-----------------------

形成外科の紹介

形成外科全般の診療および手術を行っています。当科では先天的・後天的な身体外表の形状・醜状および外傷・後遺症などに対して治療を行っています。原則として美容整形外科手術は行っていません。

主に顔面の外傷・骨折や手指・爪の外傷やその後遺症の治療、植皮術も含めた熱傷および瘢痕拘縮の治療、皮膚軟部腫瘍の切除とその再建、レーザーによる母斑症や刺青・しみの治療などを行っています。

「眼瞼下垂症について」

近年、眼瞼の機能障害により、頭痛・肩こり・首の痛みなどの身体症状さらには不眠症などの自立神経障害が引き起こされ、それらが眼瞼手術により改善されることが分かっています。当科においてもいわゆる「信州大学方式」による眼瞼手術を積極的に行っています。原則として一日入院・局所麻酔下で実施しています。

「皮膚・皮下のデキモノの治療について」

メスを用いた切除術、液体窒素による凍結凝固療法、ラジオ波による焼却、アレキサンドライトレーザーなど各種治療の中で最適と思われる方法を選択しています。大きい腫瘍の場合は、入院や全身麻酔が必要になることがあります。

「シミの治療について」

Q スイッチ付アレキサンドライトレーザーが有効です。厚みがある盛り上がったシミは凍結凝固療法など他の治療法を組み合わせます。レーザーが無効な肝斑は保存的療法が適応になります。

日本形成外科学会認定医教育関連施設。
信州大学形成外科と連携して『口唇口蓋裂』と『漏斗胸』の専門外来を設けています。

脳神経外科の紹介

診療スタッフ

及川 奏 (おいかわ すずむ) 医療安全管理部長	(社) 日本脳神経外科学会認定・脳神経外科専門医
西山 義久 (にしやま よしひさ) 科長	

特色

市立甲府病院脳神経外科は、平成 11 年の新病院移転に伴い新設された新しい科です。脳神経疾患の外科的・高度医療を行なうために、ICU、手術顕微鏡などの最新の設備を新たに用意し開設されました。科のモットーは、“真に患者さんの為になる脳神経外科”で、山梨県一、日本一の脳神経外科を目指し日々努力しています。

専門領域は脳神経外科全てですが、特に頭蓋底外科と脳卒中の外科です。頭蓋底外科は、脳神経科部長の及川が 1995 年に米国アーカンソー州立大学に留学し基礎的解剖、手術を学び、これを日本に持ち帰り発展させたもので、今まで困難であった手術もできるようになってきています。脳卒中の外科に関しては、出身大学のお家芸ともいべきもので、脳動脈瘤クリッピング術をはじめ、頭蓋底外科的手法を組合せ、安全、確実な手術を心掛けています。平成 16 年から、神経内科と協力して山梨県では行なわれていなかったパーキンソン病に対する外科治療（脳深部刺激療法）を始めて良好な結果をえています。

主な疾患

脳腫瘍（髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍、神経鞘腫、転移性脳腫瘍他）頭蓋底腫瘍、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、高血圧性脳内出血、脳梗塞、頸部内頸動脈狭窄症、外傷性頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫、水頭症、片側顔面痙攣、三叉神経痛、パーキンソン病（脳深部刺激療法）

皮膚科の紹介

診療スタッフ

市川 健 (いちかわ たけし) 科部長	(社) 日本皮膚科学会認定・皮膚科専門医
---------------------	----------------------

皮膚科の紹介

皮膚疾患のすべてを幅広く診療し、再来患者の予約制を導入して待ち時間の短縮に努めています。

アトピー性皮膚炎については年齢、重症度などを考慮し、スキンケアなど外用療法を中心とした治療と指導を心がけており、難治例では指導の意味も含め、入院治療を行うこともあります。

レーザー治療の適応となる色素性病変は形成外科に紹介しています。尋常性疣贅や、脂漏性角化症などには液体窒素による凍結療法。乾癬には内服、ビタミン D 軟膏やステロイド軟膏の外用療法のほか PUVA 療法の併用も行っています。帯状疱疹には抗ウイルス剤の外用、内服を行い、重症例では入院加療、帯状疱疹後神経痛は神経ブロック（麻酔科に依頼）を含めた治療。薬疹症例では薬剤過敏症カードを発行して、各種試験の結果を記載し、再発防止に役立てています。脱毛症の治療ではステロイド剤、血行促進剤の外用、液体窒素療法、また難治例では局所免疫療法も行っています。

医療設備：紫外線照射装置、ダーモスコピー、スーパーライザー

泌尿器科の紹介

診療スタッフ

田邊 信明 (たなべ のぶあき) 統括診療部長	(社) 日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医 (社) 日本腎臓学会認定・腎臓専門医 (社) 日本透析医学会認定・透析専門医
----------------------------	---

小室 三津夫 (こむろ みつお) 科部長	(社) 日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医 (社) 日本透析医学会認定・透析専門医
相川 雅美 (あいかわ まさみ) 科部長	(社) 日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医 (社) 日本腎臓学会認定・腎臓専門医 (社) 日本透析医学会認定・透析専門医
犬塚 秀康 (いぬづか ひでやす) 医長	(社) 日本泌尿器科学会認定・泌尿器科専門医

特色

現在 4 人のスタッフ (全て泌尿器科専門医) で、尿路 (腎・尿管・膀胱・尿道・前立腺)、男子性器 (陰茎・陰囊・精巣) および後腹膜臓器 (副腎) の各疾患に対応しています。

この中で特に、癌治療、結石治療が主体となっています。

癌治療におきましては、近年増加傾向の前立腺癌を中心に、膀胱癌、腎癌、腎盂尿管癌などの手術治療を行っています。手術では、山梨大学泌尿器科との人事交流により、腹腔鏡手術、小切開創手術にも取り組んでいます。また、当院放射線科の協力により、癌放射線治療も行っています。さらに、化学療法、分子標的薬治療も取り入れ、集学的治療にも取り組んでいます。

結石治療では、体外衝撃波結石破砕が主体です。ただし、サンゴ状結石のような大きな結石に対しては、内視鏡的治療 (経皮的破砕、経尿道的破砕) も併用しています。また、上部尿路結石に対する、軟性尿管鏡・レーザーを使用した破砕にも取り組んでいます。これらを駆使し、現在、甲府市だけでなく、国中地方全体の結石患者さんの治療にあたっています。

また、透析専門医もおり、透析室の診療、内シャント手術、バスキュラーアクセスインターベンション治療も行っております。



産婦人科の紹介

診療スタッフ

平井 光男 (ひらい みつお) 統括科部長	(社) 日本産婦人科学会認定・産婦人科専門医
小川 恵吾 (おがわ けいご) 科部長	(社) 日本産婦人科学会認定・産婦人科専門医
奥野 鈴鹿 (おくの すずか) 科長	(社) 日本産婦人科学会認定・産婦人科専門医
高木 司 (たかぎ つかさ) 医長	(社) 日本産婦人科学会認定・産婦人科専門医
安田 元己 (やすだ げんき) 医師	
日本産科婦人科学会認定医制度卒後研修指導施設指定 (指定番号 第 15007 号)	

実績

◇ 年間分娩件数 約 800 件

骨盤位 (さかご) は、26 か国 121 施設で実施した統計で、帝王切開群のほうが新生児死亡率、中枢神経障害率ともに有意に低いとの結果が出たので現在はすべて帝王切開としています。28 週未満、あるいは手術を要する新生児が予測される場合は周産期センター等へ母体搬送しており、当院 NICU で管理可能な場合は当科で分娩までお世話しています。分娩には医学的適応がある場合は医師が介入しますが、それ以外は助産師が中心となってお手伝いをしています。また分娩は原則的に LDR で行い、希望者にはパートナーの立会いも可能で好評です。

◇ 婦人科手術年間件数 約 100 件

眼科の紹介

診療スタッフ

杉山 茂 (すぎやま しげる) 科長	
--------------------	--

特色

① 専門領域 眼科全般

② 診療対象

当院眼科では、地域医療に貢献できるよう結膜炎などの前眼部疾患から、眼鏡処方、睫毛内反症、斜視弱視、白内障、緑内障、網膜硝子体疾患など幅広い分野に及んで診療しております。

③ 科独自の設備

自動屈折計、視力検査表、細隙灯顕微鏡、眼底鏡、眼底カメラ（蛍光眼底撮影可）、眼圧計、超音波診断装置（A, B モード）、角膜形状解析装置、視野計、大型弱視鏡、白内障手術装置、硝子体手術装置、網膜光凝固装置、Nd-YAG レーザー装置、OCT（光干渉断層計）等です。

④ 提供できる検査内容

視力、視野、眼底撮影、蛍光眼底撮影などです。

耳鼻咽喉科の紹介

診療スタッフ

石山 哲也 (いしやま てつや) 副院長	(社) 日本耳鼻咽喉科学会認定・耳鼻咽喉科専門医
黄 淳一 (こう じゅんいち) 科長	(社) 日本耳鼻咽喉科学会認定・耳鼻咽喉科専門医
古瀬 寛子 (ふるせ ひろこ) 科長	(社) 日本耳鼻咽喉科学会認定・耳鼻咽喉科専門医

耳鼻咽喉科の紹介

耳鼻咽喉科は聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚などの感覚機能や、呼吸・発声・構音・嚥下などの運動機能の障害を扱うほか、頭頸部領域の炎症性疾患や腫瘍性疾患の診断と治療を行う科です。近年多くなっている疾患では高齢者の難聴・めまい、小児の滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎などがあります。

耳鼻咽喉科一般疾患を対象として、丁寧な診療を行うよう努力しています。付近の診療所との密接な連携医療を行っており、効率のよい医療を提供できる体制となっています。現在重点を置いている疾患や、よく行われている手術は次のようなものです。めまい・難聴疾患の診断および治療。滲出性中耳炎に対する鼓膜チューブ挿入術。アデノイド切除術。扁桃肥大症や習慣性扁桃炎・慢性扁桃炎を対象とした口蓋扁桃摘出術。慢性副鼻腔炎や副鼻腔嚢胞の内視鏡下副鼻腔手術。声帯ポリープの喉頭顕微鏡下手術。唾液腺腫瘍の手術。大多数の手術は入院してもらい、全身麻酔で行っていますが、簡単な手術は外来で局所麻酔下に行っています。今後はアレルギー性鼻炎の診断と治療、頭頸部腫瘍の手術などにも力を入れていきたいと思っています。

専門領域

石山副院長の専門領域は、めまい・難聴などの神経耳科学的疾患の診断と治療です。

設備

当科の設備としては、各種の平衡機能検査装置、各種の聴覚機能検査装置、電気味覚機能検査装置、鼻内視鏡手術システム、耳鼻咽喉科内視鏡システムなどがあります。

提供できる検査

温度眼振検査をはじめとする平衡機能検査、聴性脳幹反応検査をはじめとする聴覚機能検査、耳小骨筋反射検査などの顔面神経機能検査、味・嗅覚機能検査、鼻咽腔・喉頭内視鏡検査、頭頸部単純 X 線検査、

CT および MRI による頭頸部画像診断、唾液腺造影検査、下咽頭・食道造影 X 線検査、頸部超音波検査、アレルギー性鼻炎の検査、血液学的検査、細胞診・組織診などの病理組織学的検査、細菌学的検査。

放射線診断科の紹介

診療スタッフ

野方 容子 (のがた ようこ) 放射線部長 兼 科部長	(社) 日本医学放射線学会認定・放射線科専門医 NPO 日本乳癌健診精度管理中央機構 健診マングラフィ読影認定医
木村 一史 (きむら かずふみ) 医長	(社) 日本医学放射線学会認定・放射線科専門医 (社) 日本 IVR 学会認定 IVR 専門医 (社) 日本核医学会認定 核医学専門医 NPO 日本乳癌健診精度管理中央機構 健診マングラフィ読影認定医

放射線診断科の紹介

放射線診断科では、院内で撮影された全ての CT、MRI、核医学検査等の画像を読影し、診断する業務を行っています。また、腹部の血管撮影も放射線診断科の業務であり、診断だけでなく血管を介した治療も行っています。これらの検査が適切に、かつ最小限の被ばくで行われるよう、診療放射線技師と協力して、撮影条件を決定しています。いずれの検査も、開業医の先生方にも手軽に利用して頂ける体制をとっており、できるだけ御希望の依頼日に検査を施行し報告書とともに、画像をお渡ししております。

放射線治療科の紹介

診療スタッフ

前畠 良康 (まえはた よしやす) 医長	(社) 日本医学放射線学会認定 放射線治療専門医 (社) 日本がん治療認定医機構認定 がん治療認定医
----------------------	---

放射線治療科の紹介

放射線治療科では、あらゆる悪性腫瘍（がん）を対象に治療を行っています。根治をめざす放射線治療だけでなく、症状を和らげることや進行を抑えることを主な目的とした放射線治療（緩和照射）にも積極的に取り組んでいます。

さらに高精度放射線治療とりわけ体幹部定位放射線治療にも積極的に取り組んでいます。定位放射線治療とは、標的病巣に対して3次的に多方向からピンポイント照射を行うことにより、病巣には高線量を照射して高い局所効果を狙う一方で、周囲の正常組織への線量を少なくして有害事象を抑える治療法です。

放射線治療科の診察は、完全予約制となっていますので、ご紹介くださる際は、地域医療支援室（病診連携システム）を通じて受診予約をお願いします。

また、放射線治療の適応・方針の決定判断におきましては、臨床経過だけでなく、病理検査報告書、直近の臨床画像（CT、MRI など）、さらに手術後であれば手術前の臨床画像が必要です。紹介状と併せて必ずご用意ください。なお臨床画像は、フィルムではなく CD、DVD などの電子媒体でご用意いたします。

麻酔科の紹介

診療スタッフ

山口 敏昭 (やまぐち としあき) 統括科部長	(社) 日本麻酔科学会認定・麻酔科専門医
池谷 一盛 (いけや かずもり) 科部長	(社) 日本麻酔科学会認定・麻酔科専門医
和久田 みゆき (わくた みゆき) 科長	(社) 日本麻酔科学会認定・麻酔科専門医
加藤 幸也 (かとう ゆきや) 科長	

特色

麻酔科は、主として手術室内での麻酔管理を行っています。また、手術室外でも、検査や治療のために必要な特殊な麻酔管理を行います。さらに、麻酔の技術を活かして、疼痛外来も行っています。

当院では、質の高い安全な麻酔を患者さんに提供するため、麻酔管理が必要な症例では、麻酔科医一人が一人の患者さんを担当するようにし、麻酔科医の不足分は、山梨大学医学部附属病院の麻酔科より麻酔専門医を派遣してもらっています。

患者さんの安全を第一に考えつつ、手術後の痛みを少しでも和らげるために、手術中より積極的に疼痛管理を行うことをモットーとし、全身麻酔症例においても、硬膜外麻酔等の部分麻酔や各種鎮痛薬を併用し、手術中から手術後にかけてスムーズな疼痛管理の移行を心掛けています。また、小児においても可能な限り大人と同等の麻酔の質を目指し、積極的に硬膜外麻酔等を併用しています。

外来診療（疼痛外来）

治療は、硬膜外ブロック、星状神経節ブロックなどの神経ブロックと薬物療法を行っています。原則として通院治療の行える症例を対象としています。難治性疾患で入院治療が必要な場合や侵襲的神経ブロックが必要な場合は、山梨大学医学部附属病院、山梨県立中央病院等を紹介しています。



診療スタッフ

藤井 英治 (ふじい えいじ) 科部長	(社) 日本口腔外科学会認定・口腔外科専門医
中村 亮介 (なかむら りょうすけ) 医師	

特色

当院は甲府市の基幹病院として、近隣の医院・歯科医院との間に地域医療連携システムを有しており、紹介された患者さんが円滑に受診できるよう配慮しております。医療機関より直接 FAX をいただくことにより初診の患者さんの受診予約や CT などの検査依頼が可能です。また開放病床を有しているため在宅診療を受けている患者さんも入院の上、安心してかかりつけの医師による処置を受けることができます。

専門領域

顎・口腔領域（アゴや口の中）に発生するさまざまな疾患の治療を専門としています。

主な診療対象

智歯などの埋伏歯、顎骨嚢胞、顎関節症、顎骨骨折、歯の脱臼・脱落、顎変形症、口腔粘膜疾患、口腔および顎骨腫瘍、唾液腺疾患、歯性感染症、顎骨骨髓炎、睡眠時無呼吸症候群（スプリント療法）など。総合病院の性格上、心疾患や糖尿病など内科的疾患を有する患者さんの抜歯など外科処置も数多く手掛けています。

治療

1. 疾患別にみて最も多いのは埋伏智歯（親知らず）の抜歯症例で、年間 350 例の抜歯を行っています。抜歯に対する不安の強い患者さんには鎮静法を併用した治療も行います。
2. 顎関節症の年間受診者数は約 130 名で、埋伏智歯に次いで多い疾患です。顎関節断層 X 線や MRI を利用して検査を行い、主としてスプリントやマイオモニターを用いた保存的治療を行っています。
3. 口腔粘膜疾患は口腔内の局所的な原因で生じているものばかりではなく、全身疾患や皮膚疾患の部分症状である場合も多いことから、他科との協力関係のもとに治療に当たっています。
4. 歯の外傷や顎骨骨折の治療にはダイレクトボンディングシステムによるブラケットを用いて、歯周組織損傷のない固定法を選択しています。また骨折部の接合材としてはチタンのミニプレートや生体内で分解吸収されるポリ L 乳酸のプレートを使用しています。
5. 下顎前突症や開咬症など顎変形症の外科的矯正手術も矯正歯科専門医と連携して積極的に取り組んでいます。
6. 睡眠中の歯ぎしり防止のためのナイトガードやいびき・睡眠時無呼吸症候群の治療に使用するスリープスプリントなど各種のマウスピースを用いた治療も行っています。

独自の設備

外来手術室、笑気吸入鎮静法設備、マイオモニター、生体情報モニタ

検査設備

CT2台、MRI、超音波診断装置

緩和ケア内科の紹介

平成24年1月より緩和ケアの専門医師による「緩和ケア内科」を開設しました。対象となる患者さんは、がん、その他、難治・不治の病を持たれている患者さん自身、そのご家族、ご遺族となります。

診療スタッフ

小林 薫 (こばやし かおる) 科部長	都道府県精神腫瘍学指導医 日本精神神経学会精神科専門医 日本サイコオンコロジー学会登録精神腫瘍医
------------------------	--

診療内容

疾患による痛み、かゆみなどの身体症状の緩和や、不眠・不安・気持ちのつらさなどの精神症状の緩和に加え、「これまでの人生の意義に対する疑問」や「これからの時間の過ごし方」などに対する相談も実施いたします。

なお、現在、元疾患治療中の患者さんが受診する場合は、主治医の紹介状が必要となります。

リハビリテーション科の紹介

診療スタッフ

山口 知之 (やまぐち ともゆき) 科長	日本整形外科学会認定・整形外科専門医
富樫 慎治 (とがし しんじ)	神経内科科部長 (兼務) 有限責任中間法人 日本神経学会認定・神経内科専門医
及川 奏 (おいかわ すずむ)	医療安全管理部長 (社) 日本脳神経外科学会認定・脳神経外科専門医
前川 慎吾 (まえかわ しんご)	整形外科統括科部長 (兼務) (社) 日本リハビリテーション医学会認定・リハビリテーション科専門医 及び 認定臨床医 (社) 日本整形外科学会・運動器リハビリテーション医

リハビリテーション科の紹介

リハビリテーション科は現在、医師5名、理学療法士7名、作業療法士4名、言語聴覚士2名の体制をとっています。整形外科的疾患、脳神経外科疾患手術後、脳卒中などの中枢神経疾患、神経内科的疾患などの急性期リハビリテーションを実施しています。急性期リハビリテーションが多いことが特徴で、患者様を中心として、家族、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーが一体となって円滑な社会復帰を目指しています。大きな窓から多くの光が差し込む開放的な広い屋内訓練室と、坂道や階段、砂利道や芝生がある広々とした屋外歩行訓練施設を有し、のびのびとした気持ちでリハビリテーションを行っていただけるように努めています。

第59回地域医療連携勉強会が開催されました

平成27年2月9日(月)には、多くの看護師の皆様方のご参加をいただき中、第59回地域医療連携勉強会を開催することができました。それぞれの職種にあったタイムリーな演題をご用意して開催いたしますので、ご参加のほどよろしくお願いいたします。



地域医療連携コーナーにおいてかかりつけ医(登録医)をご案内しています

平成25年度に引き続き本年度、当院では笛吹市医師会、中巨摩医師会(昭和中央・甲斐市)の「かかりつけ医(登録医)」の先生方の情報(住所・電話番号・診療科目・診察時間・休診日・地図等)を掲載したリーフレットと位置図を表した地域医療連携マップを作成し、地域医療連携コーナーで患者さんや来院者などへの案内を開始しました。

当該区域の登録医の先生方におかれましては、昨年9月頃から作成に伴う取材に対してご理解とご協力をいただきありがとうございました。おかげをもちまして、現時点で甲府市を合わせ約200件の登録医をご案内させていただくことができいております。高齢化がさらに進展する中で、まずは身近な「かかりつけ医」へ受診し、必要に応じて当院を紹介してもらうとともに、ある程度回復し、又は病状が安定したら「かかりつけ医」に逆紹介する体制を整備することで、地域の医療機関の機能分担を啓発するとともに最適な医療を円滑に提供できるよう医療連携を強化するものであります。



地域医療連携マップは、エリアに分けてそれぞれ区域順に地図に記載しておりますので、ご近所にある「かかりつけ医」を探ることが容易にできます。

※ 2つの追加エリアについて 笛吹市エリア 中巨摩(昭和中央・甲斐市)エリア